

山陰門推協会報

第18号

ともしび

—— 発行 ——

浄土真宗本願寺派・山陰教区
門徒推進員連絡協議会
代表者 三村 善信

—— 事務局 ——

〒690-0002 松江市大正町443-1
本願寺山陰教区内



全国門徒推進員のつどい：5月2日

内 容	
14 頁	寄稿、新門徒推進員紹介
12・13 頁	事業報告・事業計画
2～10 頁	門推役員名簿・お知らせ

本年三月十五日付、山陰教区教務所長として着任しました。宜しくお願いいたします。

第二十五代専如ご門主の「伝灯奉告法要」が、五月三十一日に円成しました。八十日間のご法要に、日本はもとより世界各地から約十五万四千人の方々がご参拝になり、山陰教区からも約二千八百名のご参拝をいただきました。多くの門徒推進員の皆様にもご縁を結んでいただき、また、ご法要の奉仕員としてもご協力をいただきましたこと、厚くお礼申し上げます。

六年前、親鸞聖人の大遠忌法要に、ハワイ開教区からご参拝された日系の方が、本願寺の境内の小石を握りしめ、「これまで多くの方が本願寺の白洲を踏みしめてお参りになったことと思う。今日、私も同じ白洲を踏みしめてお参りできたことを喜び感謝している。この小石を私の宝物にしたい。」と話しておられたそうです。本願寺の小石一粒の中に、お念仏のご縁を喜ばれたものと思います。

親鸞聖人が明らかにされたお念仏のみ教えは、歴代宗主によって絶え間なく継承されました。今私どもは、先人のご苦勞のお陰でお念仏のみ教えに遇えたことを感謝し、この度の伝灯奉告法要を機縁として、み教えに生かされ、み教えをひろめ、自他ともに心安らぐ社会を実現に貢献するために精進させていただきます。

六年後には親鸞聖人のご誕生八百五十年をお迎えします。本願寺の白洲を多くの方と共に踏みしめさせていただきます。

伝灯奉告法要の ご勝縁をいただいて

山陰教区教務所長

高橋 格 昭

寄稿

共に歩もう



おりました。ご門徒様もおられました。が高齢となり参加することがなかなか。毎期参加数も減少してきました。その中でも中央教修参加者には助成金の枠を設けて参加

今後、参加者から質問があった時には、簡潔に答えてあげることが必要になります。先日開催された今年第二回目の連研での話し合い法座で、私自身、とても参考となる考え方を聞かせていただきました。

僧侶の声

組連研第十九期を終えて

鹿足組組長

富岡 芳史

当組の連続研修も第十九期を終了することができました。第一期の受講者は軽く四十名を超えておりました。が、少子高齢化の波にのまれて年々その数も減り第十九期の終了者数は九名となりました。二度、三度と参加されて

を勧奨してまいりましたが現在までの中央教修修了者は四名にとどまっております。しかし、その方々は組の連続研修のみならず、あらゆる研究会に事務員として参加していただき教化活動にご尽力いただいております。非常に身の濃い門徒推進員として活躍されている姿を見るに、頭が下がります。年に数度は事務局と門徒推進委員の会合を持ち、いかにその数を増やしていくかとの問題にも挑戦しております。

話し合い法座に思う

神門組 光林寺

亀谷 惠隆

連研における「話し合い法座」の助言をさせていただく機会がよくあります。

話し合い法座の主役はあくまでも連研参加者でありますから、我々僧侶はしゃべりたくてもぐつと我慢して黙ってひたすら聞いていくことが大切です。

しかしながら、話し合い内容が法座のテーマから大きく逸脱したり、一人の方の独壇場になった時などは、軌道修正をする必要が出てきます。

それは、「この連研において今後いろいろなテーマについて話し合う機会があるだろうし、また、他人の悩みを聞いたりする機会も沢山あるだろうが、他人の意見を聞く時は、とにかく黙って、相手の話を十分に聞いて、受け止め、話しの中でこちらの意見を言ったりその考え方を否定したりしないことが大切ではないでしょうか。」と。

また、参加者から質問があった時には、簡潔に答えてあげることが必要になります。先日開催された今年第二回目の連研での話し合い法座で、私自身、とても参考となる考え方を聞かせていただきました。

私たち僧侶は、とかく、相手の話しを十分に聞かず、すぐにこちらの思いや意見を言ってしまうことが多々あります。「話し上手は、聞き上手。」まさしくこれです。

改めて「聴聞」の大切さを実感した話し合い法座でした。

居場所と

出番のある社会

出雲組 宗玄寺

藤 森 観 海

高齢・格差・競争・情報・無縁社会等々、現代日本社会の在り方を様々な角度から表現した言葉があります。いずれも私達が生きている、この現代日本の状況を示したものであり、それらは密接に繋がっていると考えてよいでしょう。

「門徒推進員だより」五十八

号が、皆様のもとに届いたことと思えますが、その中に「念仏者の生き方」と題し、専如ご門主が「伝灯祝賀の集い」で述べられたお言葉が載っていました。お念仏を拠り所として生きる者同志が、自分自身の生き方や、社会のありようを問い続けていくことの大切さを、お示し下さっているのではないかと、受け止めさせて頂きました。

本願寺教団では「御同朋の社会をめざす運動」として、各教区・組・寺院で具体的目標を立て、実践がなされています。今までご縁が薄かった方、無かった方々にも積極的に声掛けをしていきましよう。阿弥陀仏の願いの中に、男性も女性も老いも若きも、それぞれにかけがえのない出番が用意され、居場所が与えられていることを確かめ合い、共に

お念仏の道を歩んで参りたいと思えます。

山陰教区 実践運動研修会

「実践運動研修会で得たこと」

生死の苦海に沈む愚か者

勤式指導で新たな事がらを

数点教えていただき今後実践して行きたいと存じます。歳を重ねて行くと各地・各宗派の葬儀に参列する機会が増え、式場では式章の着装を心掛け、焼香は本願寺派の作法で行う事を常としております。当然ながら地域によって通夜・葬儀の進め方にちがいがあります、しかし残念なことです。同じ宗派での葬儀で仏さまになられたご遺族の方の式章の無着装を目の当たりにすることがあります。ご門

徒ならば寺院の知識不足ではなく正装する概念・門徒式章の持つ大きな役割を伝える意識が失われている気がしてなりません。

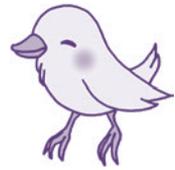
私たちは他宗派の葬儀であろうが堂々と式章を着け、惑わされずに本願寺派の焼香作法を行うよう心がけたいものです。



門徒推進員実践運動研修会：2月26日

寄稿

会員寄稿



二十八年度 総会・研修会
山陰教区門推協総会と研
修会について

浜田組門徒推進員連絡協議会会長

佐々岡 光 宏

スローガン「うけつぐ伝灯
伝えるよろこび」を、伝灯
奉告法要のテーマとした、平
成二十八年七月三十一日、二
〇一六年度山陰教区門徒推進
員連絡協議会の総会及び研修
会が、松江テルサで八十名の
参加のもと開催されました。
午前中の総会では、前年度
事業報告や決算報告、平成二
十八年度事業計画と予算案、
会則改正など活発な議論のも

と充実した総会となりました。
引き続き午後の研修会は、
出雲組覚専寺住職で本願寺派
布教使、佐々木俊教師を迎え
「うけつぐ伝灯伝えるよろこ
び」を講題に、とても分り易
いご法話を頂戴しました。

ご門主様は、「便利で豊かな
生活の追及や欲望の肥大化に
とどまらず、核家族化と人口
の流動化などによって社会構
造は大きく変化し、人間関係
は希薄となり、新たな悩みや
不安を生み出しているとの指
摘です」との、ご法話であり
ました。

それは、例えば近頃の葬儀
が「家族葬」と言われる葬儀
や街場^{まちば}で急速に広まっている
「直葬^{じきそう}」であったり「〇葬^{ぜろそう}」に
現れていると。さらに、混迷
の度はますます止むことを知
らず、内外ともに事件、事故、
災害なども相次いで起こって

います。

私たち一人ひとりが、こう
した傾向を深く受けとめ浄土
真宗のみ教えを通して自身を
見つめていかなければなりま
せん。と、そして、『仏説無量
壽経』には、あらゆる世界に生
きるすべてのいのちあるもの
が、阿弥陀さまのはたらき
よって分け隔てなく救われて
いくことが示されています。

生きとし生けるものすべてを
等しくいつくしむ大慈悲が阿
弥陀さまの救いのはたらきで
す。と、そして、「ポケモンG
Oよりお名号」佐々木俊教師
の懇切丁寧で分り易い「ま
め」のご法話

がとても心に
残りました。

合掌



二十八年度 総会・研修会
山陰教区門推協総会研修
会に参加させていただいて

鳥取因幡組 浄宗寺門徒

前川 静 子

七月三十一日、松江テルサ
「平成二十八年度 山陰教区
門徒推進員連絡協議会・研修
会」に参加させていただきました。
た。

佐々木俊教師、講題「うけつ
ぐ伝灯 伝えるよろこび」

前門主様の跡を承けて、「伝
灯法要についての消息が発布
された。伝灯法要を通して、浄
土真宗の素晴らしさを実感し
ていただきたい。科学技術の発
達により、便利で豊かな生活
の追求や欲望の肥大化はとど
まらず人間関係は希薄となり
新たな悩みや不安を生み出し
ている。浄土真宗の、み教え
を一人でも多くの人々に伝え

て行く大切さを聞き、縁のあ
る方、若い方、子供達に、み
教えをお伝えする事が、自他
共に心豊かに生きる事のでき
る社会の実現に貢献する。私
は門徒推進員となつて日が浅
く、他の宗派より嫁いでまいり
ました。お寺の事は全て義父
義母がやっておりますので
浄土真宗の事は何も知りませ
んでした。義父が亡くなって、
初めて、お寺におまいりするよ
うになりました。

住職様、坊守様のお導びき
にしたがい、こんにちまで来ま
した。今だに子供、孫達に何一
つ「うけつぐ伝灯 伝える喜
び」を教える事が、出来ていま
せん。

今私に出来る事は、より多
くの法話を聴き日々のみ教え
を聞きながら、学んでいる所で
す。まだまだ実践出来る状態
ではありませんが、御門主様

が「互いに支え合つて、苦しみ
や悲しみの世界を生き抜いて
行く事こそが、念仏者のあり
方といえる」とおっしゃって
います。

このお教えをもとに、より
多くの法話を聞いて、自我を
ましめ、互いに敬愛し、守り
広めていきたいと思う次第です。

『勤行での戸惑い』

松江組 明宗寺

福 原 一 字

大変失礼な言葉とは存じま
す。多くの皆さまは朝夕の仏
参を日常勤行集でお勤めの事
とお察し申し上げます。それ
は「正信偈」であつたり「讚仏
偈」であつたり、又「重誓偈」
や「十二札」の何れかと存じま
す。お寺での常例法座の場合
多くは「正信偈」をお勤めの事
と存じます。しかし法要が嘗

まれる時はどうでしょうか。

普段読まないお経が始まりま
すとお経本から少し目を離し
ただけで何処の部分を讀まれ
ているか分からなくなった経験
が有つた事と存じます。私だ
けでしょうか。私のお寺では
永代経法要のときは「正信偈」
をお勤めしますがご和讃に入
りますと本日は××丁と繰読
みを行います。始めの一句・
二区までは何とかお念仏を挟
んでついて行けますが途中か
ら分らなくなる方々が大半で
す。仏女の方を含めお勤めの
参拝者の声はお念仏を除き殆
ど聞けない状況になってしま
います。和讃と和讃の間のお
念仏の普は変わりませんが和
讃の部分では大半普を変えて
詠む為と、多くの経本は和讃
のみ六首が掲載され、お念仏・
和讃・お念仏・和讃・回向へと
変わるたびごとに頁を変える

必要があり、その内めくるべ
き頁が分からなくなつてしま
うからです。口で伝えても理
解出来ない、理解は出来ても
頁が思うように開けない、何
とかして皆さんの要望にんえ
たい。ヒント（中央教修のご
晨朝での私たちは持参した経
本とは別に当日詠まれる××
丁の複写を配布され、お正信
偈の繰読みをしました）が浮
かびました。それに代わるも
のを用意すれば解決出来そう
だと。

今、ハガキ大の大きさで和
讃・念仏・回向それぞれにフ
リガナと普を入れ一丁を一冊
（全部数で五十三）で作成中
です。

そして、次期永代経には大
勢で大きな声を出しお正信偈
をお勤めしたいと思うことで
ございます。

第二十五代専如門主 伝灯奉告法要記念行事 第六回全国門徒推進員の つどいに参加して

鳥取因幡組 浄徳寺

永原 初雄

五月二日、教区からの参加者増員の依頼を受けて夫婦で参拝させて頂きました。

ご案内のとおり、「釋撤宗」師の記念講演、伝灯奉告法要、リーガロイヤルホテルでの懇親会と行事は進みましたが、伝灯奉告法要では、龍谷大学付属平安中学・高校の生徒さん、神戸龍谷中学の新生など多数の皆さんとの参拝でした。そんな参拝者に対してか、ご門主様は、なぜ宗教を学ぶことが大切なのかについて、ご自身の平安中・高在校中の思い出を紹介されながら、丁寧に説明されていたのが印象

に残りました。続いて行われた記念講演では、ご門主様のご親教「念仏者の生き方」について、そのおこころを解説して頂きました。特に、七高僧など先人の繋いでくれたパスを次世代につなげるという説明に、今後の指針を頂いたように思いました。

場所を変えた門推の懇親会では、前ご門主様が挨拶にいられお言葉を頂く場面があり驚きましたが、乾杯後は各連区ごとに歌などの発表もあり、また、同期・講師の先生との再会など、楽しく過ごさせて頂きました。

振り返ってみますと、最初は、全国門徒推進員のつどいに出席出来る立場にないと思っていたのですが、追加募集に応じて参拝させて頂きました。この度は特別なのか、各教区・各組の代表だからとい

う場面は無く、一人の門推として行動させて頂き、想い出深い参拝となりました。厚く御礼申し上げます。

今後は、ご門主様はじめ皆様から頂いたお言葉、その思いを大切にして行きたいと思っています。



「第四連区研修会に 参加して」

鳥取因幡組 光輪寺

三村 善信

第四連区門徒推進員実践運動研修会は毎年、中・四国の五

教区持ち廻りで開催され、本年は去る十月二十九日・三十日の二日間に亘って本願寺広島別院において開催されました。

この度は総勢百三十名でそのうち山陰教区は十九名の参加でした。

テーマ「御同朋の社会をめざして」～日常、生活の中に生かされる浄土真宗のみ教～と題して研修をしましたが、広島は被爆地で、特に平和学習を設け「原爆ドーム一〇一年物語」と題して被爆地復元プロジェクト代表の田辺雅章講師から、広島歴史と本人が現在に至るまでの生いたち等の体験談を聞いて大変感銘を受けました。

話し合い法座では宮崎教区・連研中央講師岩尾秀紀講師の問題提起のもと、十二班に別れて活発に話し合いが行



合掌

われて意義深い研修となりました。
 又、安芸教区には宗門関係学校があり、その間の崇徳高校グリーンクラブや、進徳女子高校雅楽クラブの協力により、演奏等聞かせて頂き、広島ならではの配慮に感謝すると共に印象に残る研修会でした。

実践運動研修会

「葬儀」を受けて

松江組 真光寺

積 成 証

葬儀、誰もがいのちの終り
 が必ずやってくる。その別れの儀式を私たちは通夜、葬儀という厳粛な形で行なうのであるが、その葬儀も時代の流れと共に随分と様変わりしてきていると思う。以前は自宅葬で隣・近所が中心となり力を合せ、それぞれが分担し滞りなく行なわれたのだが今日では地域の人口減少・家庭の事情又は人様に迷惑かけたくない等の理由で、自宅葬から集会場・葬儀会館・家族葬、直葬と変って来た。又通夜においても病院・施設から自宅に帰ることなく直接会館等に安置されるケースも多々あると耳にする。

色々な諸事情があるにせよ大きな悲しさが湧いてくる。特に生前縁の深かった方などは尚更のこと。が浄土真宗では『阿弥陀如来の本願力によって信心をめぐまれ、念仏を申す人生を歩み、この世の縁が尽きるとき浄土に生まれて仏となり迷いの世に還って人々に教化する』(浄土真宗の教章私の歩む道)と教えをいただいている。悲しさよりも浄土に生まれられ仏となられたことを喜び私達に『念仏申す』生活を送るように諭されているように思う。又、葬儀といえれば迷信。法座の中でも取り上げられるのが友引の日の葬儀。清の塩、三ヶ月越えの四十九日等、地域により差があるものの浄土真宗ではこのようなことを不浄のものとせず、「正しい信心」で阿弥陀様と共に力強く立ち向う精神

を養っていきましよう。そして今一度、葬儀の持つ大切な意義を理解し、形ばかりの葬儀でなく仏との新たなご縁を結び念仏のある心豊かな生活を心がけ共に歩んでいきましよう。

合掌



平成二十八年五月二十七日より三泊四日の行程で中央教修を受けました。全国から四十七名の方と十六名の若いスタッフの方々と話し合い法座を中心に行動を共にしました。現在世の中で起きている多くの問題や過去から引きずっている解決の難しい諸問題について率直な意見発表を其他の方々の色々な意見を聞く事が出来ました。

「真宗門徒として定まる」

大田西組 龍藏寺
 釈徳慧 眞野明政



寄稿

新会員の声



超高齢化が進み多くの問題を生じている我が国内の事や、自己中心的な元の悪い状況になりつつある国際社会の事、自由経済の下、極端に広がった格差社会の事、これら起因として発生する多くの問題等、私たち浄土真宗の門徒としてどの様に受け止めどの様に対応したら良いのかと良く良く考える沢山のきっかけを頂きました。

三泊四日とちよつときつい研修かなと思いましたが、終ってみればあつという間の研修でした。多くの出会いと多くの御縁を頂いた皆様に大変感謝致します。

合掌



- ①眞野明政 (まのあきまさ)
- ②大田西組 龍藏寺
- ③中央教修を終え浄土真宗門徒としての認識を新たにしました。親鸞聖人のみ教のもと着実な活動をして行きます。
- ①福田千恵美 (ふくだちえみ)
- ②出雲組 妙寿寺
- ③お寺の活動にはできるだけ参加させていただき、門徒の方々とのご縁を大切にしていきます。そして法座の聴聞に努め、浄土真宗のみ教えをいただく喜びを感じながら毎日を送りたいと思います。
- ①須山敏夫 (すやまとしお)
- ②出雲南組 善徳寺
- ③私は、念仏を申す生活に勤し

新しく門徒推進員になられた方々

※掲載順は登録番号順

つ門徒推進員としての自覚をもって日々を過します。

- ①吾郷生善 (あごういくよし)
- ②出雲南組 慈眼寺
- ③2016年第247回中央教修終了時の決意表明式の感激を忘れず資格でなく自覚であると精進したいと思う。
- ①辻昭彦 (つじあきひこ)
- ②大田西組 龍藏寺
- ③仏社の集まりや研修会などに積極的に参加し、聴聞し、日常でも責任ある行動を心掛けたい。

質問

- ①氏名 (ふりがな)
- ②所属寺
- ③門徒推進員としての決意

- ①小村一行 (おむらかずゆき)
- ②出雲組 覚専寺
- ③私は連続研修、中央教修での教えを活かし門徒推進員として活動したいと思います。
- ①秋風潔 (あきかぜきよし)
- ②出雲南組 慈眼寺
- ③中央教修受講時の感激を忘れず、聞法の機会をいただきつ

門徒推進員としての決意

出雲南組 善徳寺

釋賢慶 須山 敏夫

若い頃には、お寺はお年寄がお参りする所と置いていたが、四十代の中頃から仏社の役員になり、更に還暦を迎えるようになった頃には仏社の役員を引き受け、法座へのお参りや奉仕活動にも参加するようになり、お寺とつながるご縁を頂くようになりました。

そうした中で、私のお寺の住職や門徒推進員の方に勧められ、平成二十八年六月に第二百四十八回中央教修を受講しました。中央教修は、全国から連研を終了した三十才台から八十才台迄の受講者が本山に集い、共に聞き合い語り合う話し合い法座を中心、「であい」「神」「差別」「浄土」

の四つのテーマで行われました。私はこの中央教修を通して多くの方と出会い、色々な問題を話し合うことで多くの事に気づかされ、視野を広げることが出来ました。改めて、門徒推進員は資格ではなく私自身が門徒推進員であることを自覚し、活動する必要性を痛感させられました。

これからは、門徒推進員としての自覚を持って、寺院活動にも積極的に参加し、住職や門徒推進員の先輩方と連携しながら、「御同朋の社会をめざす運動」を推進し、あらゆる人々が自他共に心豊かに生きる社会の実現に貢献するよう、力を尽くしたいと思いません。

合掌

③お寺の行事や法座等に積極的に参加協力します。浄土真宗のみ教えを学び、子や孫に伝えるよう努めます。

- ①安食昭吾 (あんじきしょうご)
- ②出雲南組 萬行寺
- ③約半世紀ぶりに、生を受けた故郷に帰ることができた。今後、中山間地域の発展に小さな石になれば幸いと思う。

- ①金森文男 (かなもりふみお)
- ②出雲南組 萬行寺
- ③現在75才で元気な毎日を送っています。

決意とはいえませんが本山への念佛奉仕団に進んで参加する。

した教修となりました。

門徒推進員であることを自覚し、お念仏の輪が広がり、一人でも多くの方がお寺でのお聴聞に来ていただけるよう努力したいと思います。また、浄土真宗門徒として阿弥陀さまのご縁に感謝し、朝夕お念仏申していこうと思います。

- ①山根省三 (やまねしょうぞう)
- ②神門組 正善寺
- ③所属寺の護持発展と仏社会の組織教化充実、会員加入促進に努め、明るく感謝の内に活動します。

- ①石飛悟 (いしとびさとる) (釋 正智 (しょうち))
- ②出雲南組 善福寺

みながら、門推活動に努めます。

- ①妹尾福子 (せのおふくこ)
- ②出雲南組 善徳寺
- ③浄土真宗のみ教えを頂いた佛縁に感謝し、共に聞法に努め、女性の立場から実践運動の推進に力を注ぎたい。

- ①堀江安男 (ほりえやすお) (釋 証教)
- ②出雲南組 善徳寺
- ③第11期組連研、第248期中央教修と連続で受講しました。

これらの研修では沢山の御門徒の皆さんと出会い、「日常のお念仏申す中での悩みや活動」を本音で語り合え、充実

やして、その教えを人生の柱とし、後世へも伝えていけるよう努めます。

- ①角田喜久枝 (つのだきくえ)
- ②鳥取因幡組 願正寺
- ③中央教修での決意表明と言葉面で感動ありでよい経験をさせてもらいました。
- ①長谷川美代子 (はせがわみよこ)
- ②鳥取因幡組 願正寺
- ③連研中央教修での学びはとても貴重でした。この学びを身近な門徒の方に伝えたり、自組の連研等に参加する。
- ①小畑 厚 (こはた あつし)
- ②因幡組 浄徳寺
- ③私は門徒推進員としてお寺と門徒さんとの、かけはしと成り、さらには宗派を越えて朋友の輪を広げ精進します。

- ①金崎操 (かなざきみさお)
- ②神戸組 眞宗寺
- ③親鸞聖人のみ教えに帰依し、迷信に惑わされず、寛容な心を持って御奉仕したいと思います。

- ①桐原博 (きりはらひろし)
- ②出雲南組 常信寺
- ③浄土真宗の門信徒としてより一層の自覚を持ち、み教えが受け継がれるよう実践していきたいと思っています。

- ①吉田真 (よしだまこと)
- ②出雲南組 常信寺
- ③お寺との繋りとそこからの出逢い。その中にいる倅を感じ、自分でも何かできるのではと考えています。

- ①浅野芳友 (あさのよしとも)
- ②江津組 西方寺
- ③宗祖のみ教えを一層学び、日々の生活に活かしつつ社会に広める活動に地道に取り組みたい。

- ①真田佐智江 (さなださちえ)
- ②鳥取因幡組 願正寺
- ③法話を聴かせて頂く機会を増

- ①三原一則 (みはらかずのり)
- ②出雲南組 萬行寺
- ③念仏奉仕団の広報活動に軸足を置き第一ステップとし、活動をH22年から始めて、第二ステップとして低迷する春の花まつり(子供会)の活性化を目標に一昨年より活動を始めました。本堂や境内に満面の笑みと元気な子供達の声に戻って来ました。み教えに接する機会を得る事が出来ました。大人達の知恵と協力を今後も継続する仲間も増員出来ました。

- ①神田進 (かんだすすむ)
(釋 明進)
- ②神門組 光林寺
- ③このたび中央教修を受け門徒推進員になりました。自覚をもって精進したいと思います。

- ①武田英教 (たけだひでのり)
- ②出雲組 成福寺
- ③報恩感謝につとめ、差別のない社会の実現をめざし、「御同朋の社会をめざす運動」に取り組みます。



山陰教区門徒推進員連絡協議会・会則

※太字に変更

にて手続きを行うこととする。

〔名称〕

第1条 この会は「山陰教区門徒推進員連絡協議会」という。(以下「この会」という)

〔事務局〕

第2条 この会の事務局は、山陰教区教務所に置く。なお、この会に関する山陰教区教務所における事務局(事務・会計)は、山陰教区教務所職員に委嘱することとする。

〔目的〕

第3条 この会は、山陰教区内の門徒推進員相互の連帯、及び親睦を図り聞法者としての自覚と研鑽に努め、また門徒推進員の役割を果たすと共に、宗門の実践運動推進のための活動を行うことを目的とする。

〔活動〕

第4条 この会は、前条の目的を達成するため、次の活動を行う。
 1、教区の実践運動に参画し、門徒推進員としての活動に努める。
 2、研修会、法座活動、会報発行など目的実現のための各種活動を行う。
 3、門徒推進員の養成に関する活動を行う。
 4、所属寺院における諸行事への参加、各教化団体と連携のもと、寺院の興隆に努める。
 5、その他必要とする活動を行う。

〔構成〕

第5条 この会は、門徒推進員の登録者をもって構成する。
 2、この会を退会・休会するとき
 は、所定の用紙(様式1・様式2)

〔役員と任期〕

第6条 この会に、次の役員を置く。
 会長 1名
 副会長 1名
 理事 若干名(事務局担当1名・会計担当1名を含む)
 幹事 若干名
 監事 2名

2、役員の内任期は2年とし再任を妨げないものとする。なお、役員に欠員を生じ、その後任となつた役員の内任期は、前任者の残存期間とする。

〔役員の内任期〕

第7条 この会の役員の内任期は、次のとおりとする。
 1、理事は各単位組の門徒推進員協議会で選出された会員とする。

なお、理事の員数は次の通りとする。ただし、組の門徒推進員協議会が未結成のときも、下記に準じて理事を選出する。
 (1) 単位組の会員数49名まで 1名
 (2) 単位組の会員数50名以上 2名以内

2、会長・副会長は、理事より理事会における理事の互選による。
 3、事務局担当理事は、会長が理事の内から委嘱する。
 4、会計担当理事は、会長が理事の内から委嘱する。
 5、幹事は、会長が会員の内から委嘱する。↓抹消
 6、監事は、会長が会員の内から委嘱する。

〔役員の内任期〕

第8条 役員の内任期は下記の通りとする

る。

1、会長は、この会を統括し代表する。また、山陰教区教務所長の承認を得てこの会の運営にかかわる会議などを招集する。
 2、副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
 3、理事は、この会の運営にあたる。

4、事務局担当理事は、この会の事務全般を所掌する。
 5、会計担当理事は、この会の会計全般を所掌する。
 6、幹事は、事務局担当理事の職務を補佐する。
 7、監事は、この会の会計を監査する。

〔顧問・参与〕

第9条 この会に顧問、及び参与を置くこととする。
 1、顧問は、山陰教区教務所長とし、この会への助言または指導をいただくこととする。
 2、参与は会長経験者とし必要に応じてこの会への助言などをおこなう。

〔会議〕

第10条 この会の会議などは、次の通りとする。
 1、総会は会長が招集し、毎年1回開催しなければならない。
 2、理事会は、必要に応じて会長が招集し、この会の運営にあたる。なお理事会はこの会の決定機関とし、議決は出席理事の過半数をもって決定する。
 3、役員会は、必要に応じて会長が招集し、会長、副会長、事務局担当理事および会計担当理事

で構成する。

4、会計監査会は必要に応じて会長が招集し、この会の会計を監査する。
 5、会長は、前各項以外で必要とする会議を開催することができ

〔会計〕

第11条 この会の会計は次の通りとする。

1、この会の経費は、会員の拠出による会費及び山陰教区からの助成金、またはその他の収入をもって充当する。
 2、この会の会員が退会または休会したときは、当該年度をもって会費の納入が終わる。
 3、この会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。
 4、この会の予算・決算は理事会の承認を得て、総会に報告するものとする。

〔会則の改定〕

第12条 この会則の改定は理事会において会則第10条の2により議決し、総会に報告するものとする。

〔付則〕

1、この会則は、1996(平成8)年8月1日から施行する。
 2、この会則は、1999(平成11)年4月28日に施行する。
 3、この会則は、2000(平成12)年10月31日に施行する。
 4、この会則は、2013(平成25)年6月7日に施行する。
 5、この会則は、2015(平成27)年12月8日に施行する。
 6、この会則は、2016(平成28)年12月27日に施行する。

2016 (平成28) 年度 山陰教区門徒推進員連絡協議会 事業報告

期 日	事 業 名	事 業 内 容
4 月25日(月)	監査会	2015 (平成 28) 年度 会計監査
	ともしび編集委員会	「ともしび 17 号」編集会議
5 月13日(金)	理事会	総会・研修会について
7 月 4 日(月)	第 4 連区門推協連絡協議会	【担当】安芸教区
7 月31日(日)	平成 28 年度 『総会・研修会』	【会場】松江テルサ 【講師】佐々木俊教師 【講題】うけつぐ伝灯 伝えるよろこび 【参加人数】79 名
10月29日(土) ～30日(日)	第 4 連区 門徒推進員 『実践運動研修会』	【担当】安芸教区 【講師】岩尾 秀紀 師 【テーマ】御同朋の社会をめざして 日常生活の中に生かされる浄土真宗のみ教え 【参加者 18 名 / 120】
11月19日(土)	伝灯奉告法要：門徒推進員の集い	本願寺
12月27日(火)	理事会	実践運動推進研修会について
1 月19日(木)～20日(金)	門推代表者協議会	【会長出席】
2 月26日(日)	『実践運動推進研修会』	【会場】松江テルサ ドームシアター 【講師】熊谷高暢師 (飯南組組長) 【講題】真宗門徒としての葬儀の心得 【参加人数】96 名
3 月 5 日(日)	連研履修者研修会	中止

2016 (平成28) 年度 山陰教区門徒推進員連絡協議会 一般会計歳計決算

▷歳入

款 項	平成28年度決算額	平成28年度予算額	対比△減	説 明
1 会 費	520,000	537,000	△ 17,000	
1 今年度会費	520,000	536,000	△ 16,000	会員 1,000円×520名
2 過年度会費	0	1,000	△ 1,000	
2 助 成 金	50,000	50,000	0	教区助成金
3 参 加 費	175,000	240,000	△ 65,000	
1 総会・研修会	79,000	120,000	△ 41,000	1,000×79名
2 実践研修会	96,000	120,000	△ 24,000	1,000×96名
4 雑 入	0	48	△ 48	
5 前年度繰越金	1,053,952	1,053,952	0	平成27年度繰越金
合 計	1,798,952	1,881,000	△ 82,048	

▷歳出

款 項	平成28年度決算額	平成28年度予算額	対比※超過	説 明
1 事 業 費	432,493	500,000	67,507	
1 総会・研修会	163,749	250,000	86,251	総会研修会開催経費
2 実践運動研修会	268,744	250,000	※18,744	実践運動研修会開催経費
2 広 報 費	129,600	120,000	※9,600	ともしび17号7月発行
3 会 議 費	274,485	300,000	25,515	
1 理事会費	190,635	200,000	9,365	5月13日/7月26日/12月27日
2 編集会議費	17,850	30,000	12,150	ともしび編集会議費
3 監査費	21,000	20,000	※1,000	
4 各種研修会費	45,000	50,000	5,000	連区協議会 会長・担当者出向経費
4 通 信 費	40,147	40,000	※147	各種案内・通信費
5 事 務 費	48,546	30,000	※18,546	事務経費
6 交 通 費	91,320	70,000	※21,320	各種研修会、協議会にかかる役職者交通費
7 回 金	0	0	0	
8 予 備 費	0	821,000	821,000	
合 計	1,016,591	1,881,000	864,409	

歳入合計	1,798,952	2017(平成29)年5月9日 会計帳簿、領収書、通帳を監査した結果、適正に処理されていることを認めます。 山陰教区門徒推進員連絡協議会 監事 <u>渡部 みどり</u> (印) 監事 <u>田中 国典</u> (印)
歳出合計	1,016,591	
差引合計	782,361	

2017(平成29)年度 山陰教区門徒推進員連絡協議会 事業計画

期 日	事 業 名	事 業 内 容
4月4日(火)	伝灯奉告法要：門徒推進員の集い	本願寺
5月2日(土)	伝灯奉告法要：門徒推進員の集い	本願寺【参加者 14名／509】
5月9日(火)	監査会	2016(平成28)年度 会計監査
	ともしび編集委員会	「ともしび18号」編集会議
6月15日(木)	理事会	総会・研修会について
7月6日(木) ～7日(金)	第4連区門推協連絡協議会	【担当】山口教区
7月14日(金)	ともしび編集委員会	「ともしび18号」編集会議
7月30日(日)	平成29年度 『総会・研修会』	【会場】山陰教堂教化センター 【講師】李平博昭師 【講題】「仏道をあゆむ」伝灯奉告法要御満座の消息をいただいて
10月28日(土) ～29日(日)	第4連区 門徒推進員 『実践運動研修会』	【担当】山口教区 【会場】ホテルかめ福 【講師】松月博宣師 【テーマ】お寺へのご縁、「つくり」「つなぎ」「深める」
12月	理事会	
1月	門推代表者協議会	
3月3日か4日	『実践運動推進研修会』	【会場】 【講師】 【講題】
3月	連研履修者研修会	

2017(平成29)年度 山陰教区門徒推進員連絡協議会 一般会計歳計予算

▷歳入

款 項	平成29年度予算額	平成28年度予算額	対比△減	説 明
1 会 費	521,000	537,000	△ 16,000	
1 今年度会費	520,000	536,000	△ 16,000	会員 1,000円×520名
2 過年度会費	1,000	1,000	0	
2 助 成 金	50,000	50,000	0	教区助成金
3 参 加 費	425,000	240,000	△ 40,000	
1 総会・研修会	100,000	120,000	△ 20,000	
2 実践研修会	100,000	120,000	△ 20,000	
3 連区実践研修会	225,000	0		費目新設
4 雑 入	639	48	591	
5 前年度繰越金	782,361	1,053,952	△ 271,591	平成28年度繰越金
合 計	1,779,000	1,881,000	△ 55,409	

▷歳出

款 項	平成29年度予算額	平成28年度予算額	対比△減	説 明
1 事業費	685,000	500,000	△ 185,000	
1 総会・研修会	230,000	250,000	△ 20,000	総会研修会開催経費
2 実践運動研修会	230,000	250,000	△ 20,000	実践運動研修会開催経費
3 連区実践研修会	225,000	0	225,000	費目新設
2 広 報 費	120,000	120,000	0	ともしび18号印刷経費
3 会 議 費	355,000	300,000	55,000	
1 理事会費	250,000	200,000	50,000	
2 編集会議費	30,000	30,000	0	ともしび編集会議費
3 監査費	25,000	20,000	5,000	
4 各種研修会費	50,000	50,000	0	連区協議会 会長・担当者出向経費
4 通 信 費	40,000	40,000	0	各種案内・通信費
5 事 務 費	40,000	30,000	10,000	事務経費
6 交 通 費	80,000	70,000	10,000	各種研修会、協議会にかかる役職者交通費
7 回 金	0	0	0	
8 予 備 費	459,000	821,000	△ 362,000	
合 計	1,779,000	1,881,000	102,000	

門徒役員名簿

(平成28年4月1日～30年3月31日)

役職	所属組	所属寺院	名前
会長	鳥取因幡	光輪寺	三村 善信*
副会長	松江	明宗寺	福原 一字*
会計担当	出雲	東林寺	岸本 邦夫
事務担当	大田西	瑞泉寺	中西 義昭*
理事	鳥取因幡	願正寺	池原 宏
理事	鳥取伯耆	勝福寺	岡崎 岩男
理事	出雲	了玄寺	吾郷 昭
理事	神門	願楽寺	今岡 昌紀
理事	神門	乗光寺	藤井 健蔵
理事	出雲南	圓壽寺	田部 富雄
理事	飯南	西正寺	田部 五月
理事	大田東	西楽寺	齊藤 寛
理事	邑智西	長円寺	香川 良三
理事	江津	願乗寺	西本 佳矩
理事	浜田	正蓮寺	佐々岡光宏
監事	出雲	源光寺	渡部みどり*
監事	大田東	常見寺	田中 圓而
参与	松江	明宗寺	松浦 靖
参与	神門	長泉寺	上田 克夫

*印：ともしび編集委員

「ご法義相続を考える」

連研講師 江津組 光善寺

波北 顕

現代は浄土真宗のご法義が廃れたといわれています。様々な社会的要因や人々のライフスタイルの変化をはじめとするさまざまな社会的な要因によって、浄土真宗の教えが伝わりにくくなっています。

そんな中、各地のお寺や僧侶、門信徒の方々が知恵を絞ってお寺お活性化やご法義相続のため

にいろんな取り組みをされています。宗門も「ご縁づくり」をキーワードに、とくにこれまでご縁のなかった若い方々を対象にした取り組みを行っています。どの取り組みも大切なことであるし、実際にご縁が広がっていると嬉しいです。

また、これまでご法義が七五〇年にわたり相続されてきた要因を考えると、家庭の中や地域全体で相続されてきたことが大きいと思います。これまでの私たちの暮らしの中で、ご法義を生活の中心に据えたライフスタ

イルがご法義を伝えてきたのでしよう。例えばそれは、葬儀の助け合いの精神や、報恩講を中心とした食文化という形で伝えられていると思います。

時代の変化に応じた伝え方は必要です。ご法義相続のために私たちにできることを考えると、私たち一人ひとりに合った伝え方があるはずで、ご法義にでたよろこびを私一人のもので終わるのではなく、そのよろこびを他の方々に伝えていく姿勢が、ご法義相続にとって大切なのではないのでしょうか。

編集後記

△機関誌「ともしび十八号」をおとどけします。寄稿してくださった方々、編集に携わっていただいた委員の皆さまに感謝申し上げます。

△私たち浄土真宗の至るところに「ともしび」というキーワードが使われていることに、ふと感じます。

ある教区から発行されている機関誌名はそのまま「ともしび」と使われてありますし、ある寺院のテレフォン法話のタイトルには「心のともしび」、山陰教区布教団が十数年前から取り組んでいる寺院振興の活動にも「ともしび法座」と使われています。まだまだいろいろなところで「ともしび」という言葉を目にします。

△千年続いた暗闇（無明煩惱）も、たった一本のマッチで闇を破り周りを照らすことができると（ご本願）、というご法話を聞いたことがあります。

△ともしび：という吹けば消えてしまうような小さな火をイメージしてしまいましたが、その小さな灯火は仏さまから見た、大切にかけがえない私たち一人ひとりを意味しているのではといただいています。

その「ともしび」が周りを照らし、消さないように共に歩みながら、法義繁盛に勤めてまいります。

【担当者】